防衛研究所、令和３年度戦争史研究国際フォーラム

「歴史としての湾岸戦争」

令和３年９月１４日（火）

第一部「軍事史のなかの湾岸戦争」（０９：００－１２：００）

議長挨拶（０９：００－０９：０５）

基調講演（０９：０５－０９：５０）

デイヴィッド・Ａ・デプテュラ（米空軍退役中将）

「『砂漠の嵐』航空作戦の立案と実行――効果ベースのアプローチ」

セッション（０９：５０－１１：０５）

カーター・マルケイジアン（米海軍分析研究所（ＣＮＡ）研究員）

「湾岸戦争がアメリカの戦略とその概念に対して与えた長期的影響」

ウィリアムソン・マーレー（米オハイオ州立大学名誉教授）

「ＲＭＡと西側の台頭――未来への含意」

塚本勝也（防衛研究所理論研究部社会・経済研究室長）

「湾岸戦争と軍事革新」

総合討議（１１：０５－１２：００）

第二部「国際政治史のなかの湾岸戦争」（１５：００－１８：００）

議長挨拶（１５：００－１５：０５）

基調講演（１５：０５－１５：５０）

ローレンス・フリードマン卿（ロンドン大学キングスカレッジ前副学長）

「湾岸戦争をめぐる国際政治」

セッション（１５：５０－１７：０５）

ヒュー・ストローン卿（英セントアンドリュース大学教授）

「イギリスにとっての湾岸戦争」

田所昌幸（慶應義塾大学教授）

「日本外交にとっての湾岸戦争」

スティーブン・バジー（英ウーバーハンプトン大学教授）

「最初のメディア戦争」

総合討議（１７：０５－１８：００）